

様式第 2 3 号（第 5 条関係）

令和 7 年 3 月 31 日

笠岡市長 殿

所 在 地	笠岡市飛島 5 9 2 3 - 1
協 議 会 名	飛島自治振興会
協 議 会 長 名	会長 山本吉太郎

令和 6 年度笠岡市魅力あるまちづくり交付金（活動交付金）
変更申請書（兼）実績報告書

令和 6 年 4 月 1 日付け笠岡市指令協第 269 号で交付決定を受けた交付金について、次のとおり交付額の変更を申請します。併せて、次のとおり活動が完了したので、笠岡市魅力あるまちづくり交付金交付要綱第 5 条の規定により関係書類を添えて報告します。

記

- 1 変更交付申請額 1,702,300 円
（交付金決算額）

〔内訳〕 (単位：円)

交付決定額 ①	変更交付申請額（交付金決算額）		返還額 ④
	当該年度支出額 ②	次年度繰越額 ③	
1,750,000	1,702,300		47,700

- 2 交付金が減額変更になった理由

活動内容の縮小と経費節減に努めたため

【添付書類】

- 笠岡市魅力あるまちづくり交付金（活動交付金）活動実績明細書（様式第 2 4 号）
- 笠岡市魅力あるまちづくり交付金（活動交付金）収支決算書
(様式第 2 5 号又は様式第 2 5 号の 1)
- 支払書類（レシート等）の原本（活動ごとに取りまとめたもの）
- 事業の実施状況がわかる写真及び成果品
- その他参考となる書類

令和 6 年度笠岡市魅力あるまちづくり交付金（活動交付金）活動実績明細書

協議会名 飛島自治振興会

活動No	1
活動名	島内交通
前年からの繰越金	○あり ●なし

1 目的、活動実施により期待される効果

【目的】	公共交通機関のない飛島において、島民の移動手段を確保することは生活上最も重要な役割である。島内の移動や荷物の運搬などは、島民に限らず帰省者にも必要とされている。安全・安心が確保された島内交通事業により島民が安心して暮らせる地域づくりに貢献することを目的とする。
【効果】	島民の交通手段となることで、買い物や通院などに安心して通うことができる。

2 実施期間

令和 6 年 4 月 1 日 ～ 令和 7 年 3 月 31 日
(計画期間 年中 年目)

3 実施場所

飛島島内道路

4 活動に関わった人数・団体

○総人数： 7 人（ア＋イ）
（内訳）企画運営に関わった人数： 3 人（ア）
その他関係人数（当日参加者等）： 4 人（イ）
○団体： （団体名） 飛島自治振興会 ， （団体名） 集落支援員
（団体名） ， （団体名）

5 実施内容

1日6回の定期船の寄港に合わせて、島民の搬送、荷物の運搬にあたる。
担当者は、定期船の寄港のたびに、前後30分程度島内交通業務のため島内に待機する。

6 決算額

1,184,074 円（うち交付金分 1,170,000 円）

7 活動実施による成果及び課題

【成果】	年間365日、1日6回の定期線寄港にともなう島民の送迎や荷物の運搬を問題なく実施できた。島内交通事業が円滑にできるように、集落支援員と担当者との調整を行えた。
【課題】	定期船の寄港のみならず、島内の移動手段としてのニーズも高まってきている。拘束時間があるために外出できないなど、担当者の負担が大きい。また、予算内で事業を運営するための工夫と担当者の確保が課題である。担当する人材の高齢化により担い手が不足している。

令和 6 年度笠岡市魅力あるまちづくり交付金（活動交付金）収支決算書

協議会名 飛島自治振興会

活動No	1
活動名	島内交通

【収入の部】 (単位：円)

費 目	予算額	決算額	差引	摘 要
市交付金	① 1,170,000	1,170,000	0	当該年度分
その他収入	0	14,074	△ 14,074	
飛島自治振興会		14,074	△ 14,074	
			0	
			0	
計	1,170,000	1,184,074	△ 14,074	

【支出の部】 (単位：円)

費 目	予算額	決算額	差引	摘 要
報償費	1,126,000	1,129,000	△ 3,000	別紙「出納簿」のとおり
旅費		0	0	〃
需用費	44,000	55,074	△ 11,074	〃
役務費		0	0	〃
使用料及び賃借料		0	0	〃
備品購入費		0	0	〃
0		0	0	〃
0		0	0	〃
			0	
			0	
計	1,170,000	1,184,074	△ 14,074	決算額のうち市交付金分 ② 1,170,000

市交付金の余剰金 ①－② 0 円

市交付金の余剰金のうち

次年度繰越額 ③ 0 円 返還額 ④ 0 円

※ 収入及び支出の区分欄は、適宜変更して使用すること。

活動交付金

島内交通

報償費

1

[illegible]

出 納 簿

交付金区分 活動交付金

活動名 島内交通

費目 需用費 消耗品費

No. 1 ↑ドロップダウンリストから選んでください。

No.	年	月	日	支払先	摘 要	支出額	支出累計
1	6	8	3	スズキマリーナ	ガソリン代 (1年分)	55,074	55,074
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							
32							
33							
34							
35							
36							
37							
38							
39							
40							
No. 1 小 計						55,074	

自己評価シート

(令和 6 年度)

〔活動交付金〕

No. 1

協議会名	飛島自治振興会
活動名	島内交通

活動目的	公共交通機関のない飛島において、島民の移動手段を確保することは生活上最も重要な役割である。島内の移動や荷物の運搬などは、島民に限らず帰省者にも必要とされている。安全・安心が確保された島内交通事業により島民が安心して暮らせる地域づくりに貢献することを目的とする。
実施内容	1日6回の定期船の寄港に合わせて、島民の搬送、荷物の運搬にあたる。 担当者は、定期船の寄港のたびに、前後30分程度島内交通業務のため島内に待機する。

活動段階	評価項目	評価点
計画段階	地域の子供から高齢者まで幅広い世代の意見をきいて活動を計画することができたか。	2
	活動の目的・効果を地域の人々で共有することができたか。	3
	活動に参加するみんなで話し合い活動計画を立てることができたか。	2
	活動計画の目的・効果・内容などを地域住民に周知・共有できたか。 (活動の経費・理由・内容など)	3
	計画段階からより多くの住民や団体が活動に参加できるような呼びかけができたか。 (広報手段・日程調整など)	3
実施段階	活動中、地域住民が積極的に参加できる環境づくりができたか。 (男女共同参画の推進、地域の若者などに対して活動参加への積極的な呼びかけなど)	2
	活動中、参加者や協力団体とお互いの特性を活かした役割分担ができたか。	4
	活動中、地域住民や協力団体と協力して活動を進められたか。	4
	活動の進み具合に応じて、臨機応変に対応できたか。	3
振り返り	活動終了後、活動の成果や課題についてみんなで話し合うことができたか。	2
	地域のニーズに合致した活動ができたか。	4
	活動の成果や課題を共有し、今後の活動に向けて話し合うことができたか。	3
	活動をとらえて、地域の中でまちづくり協議会の周知と理解を深めることができたか。	3
	活動終了後、活動の成果や課題を地域に地域に向けて周知することができたか。	2

※評価点について

4:よくできた 3:まあまあできた 2:あまりできなかった 1:全くできなかった

活動の成果	現状と課題
年間365日、1日6回の定期線寄港にともなう島民の送迎や荷物の運搬を問題なく実施できた。島内交通事業が円滑にできるように、集落支援員と担当者との調整を行えた。	定期船の寄港のみならず、島内の移動手段としてのニーズも高まってきている。拘束時間があるために外出できないなど、担当者の負担が大きい。また、予算内で事業を運営するための工夫と担当者の確保が課題である。 担当する人材の高齢化により担い手が不足している。

今後の活動の方向性・改善策

担当者の高齢化により、事業の継続が難しくなった場合に、一般社団法人飛島学園として事業を支援していく準備が必要である。

様式第24号（第5条関係）

令和 6 年度笠岡市魅力あるまちづくり交付金（活動交付金）活動実績明細書

協議会名 飛島自治振興会

活動No	2
活動名	デイサービス
前年からの繰越金	○あり ●なし

1 目的、活動実施により期待される効果

【目的】	高齢者の定期的な集いの場を提供し、ひきこもりの防止を行うとともに、身体機能の維持・向上を目的としたリハビリを行う。
【効果】	高齢者のひきこもりを防止し、身体機能の維持・向上等の介護予防の促進を図り、健康を維持することが期待できる。

2 実施期間

令和 6 年 4 月 1 日 ～ 令和 7 年 3 月 31 日
(計画期間 年中 年目)

3 実施場所

旧飛島幼稚園

4 活動に関わった人数・団体

○総人数： 16 人（ア＋イ）
（内訳）企画運営に関わった人数： 6 人（ア）
その他関係人数（当日参加者等）： 10 人（イ）
○団体： （団体名） 飛島婦人会 ， （団体名） 集落支援員
 （団体名） ， （団体名）

5 実施内容

毎週水曜日の午前中に集まり（車による送迎）バイタルチェックや身体機能の維持・向上を目的としたリハビリ運動を行い、島民同士の交流を促進するサロンを開催する。

6 決算額

310,000 円（うち交付金分 300,000 円）

7 活動実施による成果及び課題

【成果】	参加者の健康状況を把握でき、情報交換の場となっている。
【課題】	担当者、参加者の高齢化。参加者の固定化が課題である。

様式第 2 5 号（第 5 条関係）

令和 6 年度笠岡市魅力あるまちづくり交付金（活動交付金）収支決算書

協議会名 飛島自治振興会

活動No	2
活動名	デイサービス

【収入の部】 (単位：円)

費 目	予算額	決算額	差引	摘 要
市交付金	① 300,000	300,000	0	当該年度分
その他収入	20,000	10,000	10,000	
飛島自治振興会	20,000	10,000	10,000	
			0	
			0	
計	320,000	310,000	10,000	

【支出の部】 (単位：円)

費 目	予算額	決算額	差引	摘 要
報償費	320,000	310,000	10,000	別紙「出納簿」のとおり
旅費		0	0	〃
需用費		0	0	〃
役務費		0	0	〃
使用料及び賃借料		0	0	〃
備品購入費		0	0	〃
0		0	0	〃
0		0	0	〃
			0	
			0	
計	320,000	310,000	10,000	決算額のうち市交付金分 ② 300,000

市交付金の余剰金 ①－② 0 円

市交付金の余剰金のうち

次年度繰越額 ③ 0 円 返還額 ④ 0 円

※ 収入及び支出の区分欄は、適宜変更して使用すること。

活動交付金

デイサービス

報償費

1

[illegible]

自己評価シート

(令和 6 年度)

No. 2

協議会名	飛島自治振興会
活動名	デイサービス

活動目的	高齢者の定期的な集いの場を提供し、ひきこもりの防止を行うとともに、身体機能の維持・向上を目的としたリハビリを行う。
実施内容	毎週水曜日の午前中に集まり（車による送迎）バイタルチェックや身体機能の維持・向上を目的としたリハビリ運動を行い、島民同士の交流を促進するサロンを開催する。

活動段階	評価項目	評価点
計画段階	地域の子供から高齢者まで幅広い世代の意見をきいて活動を計画することができたか。	3
	活動の目的・効果を地域の人々で共有することができたか。	3
	活動に参加する人々で話し合い活動計画を立てることができたか。	2
	活動計画の目的・効果・内容などを地域住民に周知・共有できたか。 (活動の経費・理由・内容など)	2
	計画段階からより多くの住民や団体が活動に参加できるような呼びかけができたか。 (広報手段・日程調整など)	3
実施段階	活動中、地域住民が積極的に参加できる環境づくりができたか。 (男女共同参画の推進、地域の若者などに対して活動参加への積極的な呼びかけなど)	3
	活動中、参加者や協力団体とお互いの特性を活かした役割分担ができたか。	3
	活動中、地域住民や協力団体と協力して活動を進められたか。	2
	活動の進み具合に応じて、臨機応変に対応できたか。	3
振り返り	活動終了後、活動の成果や課題について人々で話し合うことができたか。	2
	地域のニーズに合致した活動ができたか。	4
	活動の成果や課題を共有し、今後の活動に向けて話し合うことができたか。	2
	活動をととして、地域の中でまちづくり協議会の周知と理解を深めることができたか。	2
	活動終了後、活動の成果や課題を地域に地域に向けて周知することができたか。	2

※評価点について

4:よくできた 3:まあまあできた 2:あまりできなかった 1:全くできなかった

活動の成果 参加者の健康状況を把握でき、情報交換の場となっている。	現状と課題 担当者、参加者の高齢化。参加者の固定化が課題である。
--------------------------------------	-------------------------------------

今後の活動の方向性・改善策 居住人口の減少により参加者が少なくなっている。事業規模の見直しが必要である。

様式第24号（第5条関係）

令和 6 年度笠岡市魅力あるまちづくり交付金（活動交付金）活動実績明細書

協議会名 飛島自治振興会

活動No	3
活動名	ごんせい飛島観光事業
前年からの繰越金	○あり ●なし

1 目的、活動実施により期待される効果

【目的】	飛島には約600本のやぶ椿が自生していると言われており、その椿にかかわる島の文化や景観、椿関連商品が笠岡ブランドとして認定されている。椿や島内の景観を整備を推進することで、飛島を訪れるリピーターを増やすことを目的とする。
【効果】	椿や島内の景観を整備を推進することで、飛島を訪れるリピーターを増やし、持続可能な島民との交流や関係を深めることが期待できる。また、伝統的な椿事業を守り続けることに繋がる。

2 実施期間

令和 6 年 4 月 1 日 ～ 令和 7 年 3 月 31 日
(計画期間 年中 年目)

3 実施場所

飛島全域、飛島つばき研究所、まちづくり協議会事務所

4 活動に関わった人数・団体

○総人数： 20 人（ア＋イ）
（内訳）企画運営に関わった人数： 3 人（ア）
その他関係人数（当日参加者等）： 17 人（イ）
○団体： （団体名） 飛島自治振興会 ， （団体名） 飛島ガーディアンプロジェクト
（団体名） 集落支援員 ， （団体名） 一社）飛島学園

5 実施内容

椿油の生産・販売
島内の環境整備

6 決算額

150,090 円（うち交付金分 150,000 円）

7 活動実施による成果及び課題

【成果】	椿事業に従事できる人員が少なくなるなかで、安定的な販売システムが構築できた。
【課題】	収穫量の減少、作業人員の確保が課題である。

活動交付金

ごんせい飛島観光事業

報償費

1

[illegible]

様式第 2 5 号（第 5 条関係）

令和 6 年度笠岡市魅力あるまちづくり交付金（活動交付金）収支決算書

協議会名 飛島自治振興会

活動No	3
活動名	ごんせい飛島観光事業

【収入の部】 (単位：円)

費 目	予算額	決算額	差引	摘 要
市交付金	① 150,000	150,000	0	当該年度分
その他収入	0	90	△ 90	
飛島自治振興会		90	△ 90	
			0	
			0	
計	150,000	150,090	△ 90	

【支出の部】 (単位：円)

費 目	予算額	決算額	差引	摘 要
報償費	60,000	66,000	△ 6,000	別紙「出納簿」のとおり
旅費		0	0	〃
需用費	90,000	84,090	5,910	〃
役務費		0	0	〃
使用料及び賃借料		0	0	〃
備品購入費		0	0	〃
0		0	0	〃
0		0	0	〃
			0	
			0	
計	150,000	150,090	△ 90	決算額のうち市交付金分 ② 150,000

市交付金の余剰金 ①－② 0 円

市交付金の余剰金のうち

次年度繰越額 ③ 0 円 返還額 ④ 0 円

※ 収入及び支出の区分欄は、適宜変更して使用すること。

活動交付金

ごんせい飛島観光事業

修繕料

1

↑ドロップダウンリストから選んでください。

[illegible]

活動交付金

ごんせい飛島観光事業

消耗品費

1

↑ドロップダウンリスト
から選んでください。

[illegible]

自己評価シート

(令和 6 年度)

No. 3

協議会名	飛島自治振興会
活動名	ごんせい飛島観光事業

活動目的	飛島には約600本のやぶ椿が自生していると言われており、その椿にかかわる島の文化や景観、椿関連商品が笠岡ブランドとして認定されている。椿や島内の景観を整備を推進することで、飛島を訪れるリピーターを増やすことを目的とする。
実施内容	椿油の生産・販売 島内の環境整備

活動段階	評価項目	評価点
計画段階	地域の子供から高齢者まで幅広い世代の意見をきいて活動を計画することができたか。	3
	活動の目的・効果を地域の人みんなで共有することができたか。	3
	活動に参加するみんなで話し合い活動計画を立てることができたか。	4
	活動計画の目的・効果・内容などを地域住民に周知・共有できたか。 (活動の経費・理由・内容など)	4
	計画段階からより多くの住民や団体が活動に参加できるような呼びかけができたか。 (広報手段・日程調整など)	4
実施段階	活動中、地域住民が積極的に参加できる環境づくりができたか。 (男女共同参画の推進、地域の若者などに対して活動参加への積極的な呼びかけなど)	4
	活動中、参加者や協力団体とお互いの特性を活かした役割分担ができたか。	4
	活動中、地域住民や協力団体と協力して活動を進められたか。	4
	活動の進み具合に応じて、臨機応変に対応できたか。	3
振り返り	活動終了後、活動の成果や課題についてみんなで話し合うことができたか。	4
	地域のニーズに合致した活動ができたか。	4
	活動の成果や課題を共有し、今後の活動に向けて話し合うことができたか。	3
	活動をとらえて、地域の中でまちづくり協議会の周知と理解を深めることができたか。	3
	活動終了後、活動の成果や課題を地域に地域に向けて周知することができたか。	2

※評価点について
4:よくできた 3:まあまあできた 2:あまりできなかった 1:全くできなかった

活動の成果	現状と課題
椿事業に従事できる人員が少なくなるなかで、安定的な販売システムが構築できた。	収穫量の減少、作業人員の確保が課題である。

今後の活動の方向性・改善策
椿祭りの参加者が少なくなってきた。事業規模の見直しが必要である。 高齢化により搾油作業、納品等の人員が不足しているため、担い手の育成が急務である。

様式第24号（第5条関係）

令和 6 年度笠岡市魅力あるまちづくり交付金（活動交付金）活動実績明細書

協議会名 飛島自治振興会

活動No	4
活動名	鳥獣害対策
前年からの繰越金	☐ あり ☒ なし

1 目的、活動実施により期待される効果

【目的】	イノシシ被害を抑えるため、猟友会に協力してくくり罠の見回り・点検を実施する。
【効果】	くくり罠が外れていないか管理することで、捕獲率が向上する。

2 実施期間

令和 6 年 4 月 1 日 ～ 令和 7 年 3 月 31 日
(計画期間 年中 年目)

3 実施場所

飛島全域

4 活動に関わった人数・団体

○総人数： 7 人（ア＋イ）
（内訳）企画運営に関わった人数： 3 人（ア）
その他関係人数（当日参加者等）： 4 人（イ）
○団体： （団体名） 飛島自治振興会 ， （団体名） 集落支援員
（団体名） 一社）飛島学園 ， （団体名）

5 実施内容

定期的に島内のくくり罠の点検を実施し、イノシシ捕獲時は猟友会に連絡して駆除を依頼する。
鳥獣を処分する。
猪による被害の復旧にあたる。

6 決算額

82,300 円（うち交付金分 82,300 円）

7 活動実施による成果及び課題

【成果】	鳥獣害対策の問題点が整理できた。 飛島における事業規模の仕組みや見通しが立った。
【課題】	高齢化による人員不足。担い手の育成が急務である。

様式第 2 5 号（第 5 条関係）

令和 6 年度笠岡市魅力あるまちづくり交付金（活動交付金）収支決算書

協議会名 飛島自治振興会

活動No	4
活動名	鳥獣害対策

【収入の部】 (単位：円)

費 目	予算額	決算額	差引	摘 要
市交付金	① 130,000	130,000	0	当該年度分
その他収入	0	0	0	
			0	
			0	
			0	
計	130,000	130,000	0	

【支出の部】 (単位：円)

費 目	予算額	決算額	差引	摘 要
報償費	130,000	82,300	47,700	別紙「出納簿」のとおり
旅費		0	0	〃
需用費		0	0	〃
役務費		0	0	〃
使用料及び賃借料		0	0	〃
備品購入費		0	0	〃
0		0	0	〃
0		0	0	〃
			0	
			0	
計	130,000	82,300	47,700	決算額のうち市交付金分 ② 82,300

市交付金の余剰金 ①－② 47,700 円

市交付金の余剰金のうち

次年度繰越額 ③ 0 円 返還額 ④ 47,700 円

※ 収入及び支出の区分欄は、適宜変更して使用すること。

No. 1

[illegible]

自己評価シート

(令和 6 年度)

No. 4

協議会名	飛島自治振興会
活動名	鳥獣害対策

活動目的	イノシシ被害を抑えるため、猟友会に協力してくくり罠の見回り・点検を実施する。
実施内容	定期的に島内のくくり罠の点検を実施し、イノシシ捕獲時は猟友会に連絡して駆除を依頼する。 鳥獣を処分する。 猪による被害の復旧にあたる。

活動段階	評価項目	評価点
計画段階	地域の子供から高齢者まで幅広い世代の意見をきいて活動を計画することができたか。	2
	活動の目的・効果を地域の人々で共有することができたか。	3
	活動に参加する人々で話し合い活動計画を立てることができたか。	3
	活動計画の目的・効果・内容などを地域住民に周知・共有できたか。 (活動の経費・理由・内容など)	2
	計画段階からより多くの住民や団体が活動に参加できるような呼びかけができたか。 (広報手段・日程調整など)	2
実施段階	活動中、地域住民が積極的に参加できる環境づくりができたか。 (男女共同参画の推進、地域の若者などに対して活動参加への積極的な呼びかけなど)	2
	活動中、参加者や協力団体とお互いの特性を活かした役割分担ができたか。	2
	活動中、地域住民や協力団体と協力して活動を進められたか。	2
	活動の進み具合に応じて、臨機応変に対応できたか。	2
振り返り	活動終了後、活動の成果や課題について人々で話し合うことができたか。	2
	地域のニーズに合致した活動ができたか。	4
	活動の成果や課題を共有し、今後の活動に向けて話し合うことができたか。	3
	活動をととして、地域の中でまちづくり協議会の周知と理解を深めることができたか。	3
	活動終了後、活動の成果や課題を地域に地域に向けて周知することができたか。	3

※評価点について
4:よくできた 3:まあまあできた 2:あまりできなかった 1:全くできなかった

活動の成果 鳥獣害対策の問題点が整理できた。 飛島における事業規模の仕組みや見通しが立った。	現状と課題 高齢化による人員不足。担い手の育成が急務である。
--	-----------------------------------

今後の活動の方向性・改善策 令和8年度に向けて地域組織の立ち上げのビジョンが明確になった。
--